

# 深イ〜話!

No.5

〜〜〜本田技研工業株 ホームページ「本田社史50年」より〜〜〜

1953年、本田宗一郎氏は最新鋭の工作機械を海外からいくつか輸入します。当時のお金で4億円、その頃の大卒の初任給が1万円前後ですから、周りから見たら信じられないような額の投資だったそうです。

だから、購入する時に、「会社がつぶれてもいいのか？」と聞かれたそうですが、それに対し本田氏は、

**「会社はつぶれるかもしれないが、  
機械そのものは日本に残る。  
それは必ず日本の産業界に役立つはずだ。」** と言っているのです。

自分の会社がダメになったとしても、日本のためになればそれでいいんだと。だから、巨額の投資もするのだと。

ところがある日、社員が、輸入した機械の中で一番高い機械を壊してしまいました。その社員は真っ青になって、本田氏のところへ行きました。

「あの機械を壊してしまいました・・・」

「ケガはなかったか？」

「いや、だから、あの機械を壊してしまったんです。」と繰り返したところ、本田氏は

「仕方がないじゃないか。機械は直せばいい。

でも、人は手や足を切り落としてしまったら元には戻らない。

人にケガがなかったのが一番だ。」

・・・それを聞いて社員は涙したそうです。

高価な機械よりも、社員の体のことを心配しているのです。

こんなにすばらしい経営者が日本にいらっやったことは日本の誇りです。

ほんのすこしずつでも、近づきたいものです。